

タブレット端末の持ち帰りと今後の家庭学習

校長 谷口源太郎

4月から全学年の情報端末がiPadに統一されて、それぞれの学年で日常的に活用された授業、補充指導が行われ始めています。

本校では、すべての学年・学級で格差なくタブレット端末を活用できるように、職員研修の機会を設けて、実技講習等をして操作技能を高めたり、様々な実践事例の紹介をしたりするなどして活用法の共有化を図っているところです。

今年度は、主に低学年におけるタブレット端末の活用法や特別支援教育における具体的な実践事例を集約していきたいと考えています。そうすることで、小学校期におけるアナログとデジタルによる学習指導を融合させた指導体系を作り上げたいと考えています。また、学校における学習指導に加えて、家庭学習とも関連を図った学習指導の在り方を明らかにしたいと考えています。

現段階で想定している家庭学習は5つのパターンがあり、それを実践していこうと考えています。それぞれについて紹介します。

**◆研究3【家庭学習】の実践イメージ**

※新規: 日常的な持ち帰りと課題内容  
 ※新規: 家庭における協働学習の可能性

→ 日常的な持ち帰りはいつから始める?  
 → 個別学習の課題内容と協働学習の課題内容  
 → 家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減

① **基礎・基本の定着:** 家庭学習ノートとタブレット端末(デジタルドリル等)を組み合わせた漢字、計算指導等  
 ② **反転授業:** タブレット端末の持ち帰りによる家庭での予習からの授業(反転授業) **算数科以外の教科で実践**

◆ **そもそも家庭学習の目的は何か?**  
**学習習慣を確立させること、「基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育む」=全員に出す「共通課題」の宿題と本人の意欲や学習状況に応じて進める「自主学習」から構成される。**

**タブレット端末の持ち帰りに伴う今後の家庭学習の実践イメージ**

① 自校オリジナルの家庭学習ノートの活用と掲示  
 家庭学習における家庭学習ノートとデジタルドリルの活用可能性を効果的に示す。

② 【家庭学習】6年生の宿題はデジタルドリル『ナビゼマ』と『タブレットドリル』 2022年10月03日  
 10月3日(月)6年生の宿題は、タブレット端末を持ち帰ってデジタルドリル『ナビゼマ』と『タブレットドリル』に取り組む予定です。6年生の宿題は紙とデジタルドリルを併用して取り組む予定です。この取り組みにより、デジタルドリルでの復習が期待されます。また、宿題のデジタルドリル化により、宿題の持ち帰り量が軽減され、学習の負担が軽減される見込みです。

③ 5年生の組 算数科「倍数と約数」前時終末一家庭学習の流れ  
 家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減  
 家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減  
 家庭学習ノートを調べる業務・添削業務の軽減

○基礎基本が確実に定着する。  
 ○ノート添削の手間がかからず業務が簡素化、効率化される。  
 ○授業内容がこれまで以上に深まり充実する。(反転授業)  
 ④ 個別の課題を協働で学習するパターンの可能性を探る。

**家庭学習課題の与え方パターン①**  
**アナログ型課題(家庭学習ノート、プリント等)**

各学年の子どもの家庭学習ノート(概観的な例)  
 【家庭学習】5年生の宿題はデジタルドリル『ナビゼマ』と『タブレットドリル』 2022年10月14日

家庭(アナログ課題)

従来のアナログ型の家庭学習のパターンである。  
 ○家庭学習の習慣化を図ることができる。  
 ○基礎基本の確実な定着を図ることができる。  
 ▲ノート添削の手間がかかる。

**家庭学習課題の与え方パターン②**  
**アナログ型課題をデジタルドリルに置き換える**

【家庭学習】6年生の宿題はデジタルドリル『ナビゼマ』と『タブレットドリル』 2022年10月03日

学校(授業)

家庭学習ノートや課題プリントをデジタルドリルに置き換えるパターンである。家庭でデジタルドリルを活用して復習する。  
 ○家庭学習の習慣化を図ることができる。  
 ○基礎基本の確実な定着を図ることができる。  
 ○ノート添削の手間がかからない。

- ① 従来型の家庭学習です。家庭学習ノートや課題プリントが宿題になっています。宿題といえば、私たちや保護者の世代は、紙での宿題がごく当然のことですし、宿題といえば紙という選択肢しかありませんでした。今でもそう思われている保護者も多いかと思います。タブレット端末が導入され、家庭への持ち帰りが行えるようになった現在では、その他の家庭学習が行えるようになっていきます。
- ② パターンの②は紙で出していた課題を、デジタルドリルに置き換える取組です。学校で学習した授業内容を家でも確実に復習してしっかりと身に付ける手立てとして、デジタルドリルを使って復習するやり方になります。高学年ではすでにご覧のような形の宿題を昨年度から出しています。

### 家庭学習課題の与え方パターン③ 反転型授業(次時の予習課題→授業へつなぐ)

5年2組 算数科「因数と約数」(同時授業→家庭学習の活用)  
家庭学習(次時の予習課題)→授業へつなぐ

5年2組 算数科「因数と約数」反転授業 本時  
家庭学習(次時の予習課題)→授業へつなぐ

次時の予習課題(共通課題・個別学習)  
家庭(アナログ課題)→先生へ送信

学校(反転型授業)

○算数科以外の教科領域でも行える可能性がある。  
○家庭学習と授業が切れ間なく繋ぐことができる。

### 家庭学習課題の与え方パターン④ 本時の授業の振り返り・復習

タブレット端末を自宅に持ち帰っての歌唱練習のための事前指導 2022年03月12日

自宅で練習し、録画したリコーダーの演奏を先生のタブレット端末に送信された動画(3月)

学校(授業)

家庭(練習→録画→送信)

○演奏・演技・発表等の動画データ等があればタブレットを持ち帰り、その映像を振り返りながら課題点を明らかにして学ぶ家庭学習が行える。  
○次の授業にも繋ぐことができる。

### 家庭学習課題の与え方パターン⑤ 授業で学んだことをさらに調べる(発展的学習)

6年picture dictionary及びヘッドセット等を活用して英語科授業を行いました。2023年11月29日

学校(授業)

家庭(発展的課題)

○授業で学んだことや興味関心を持ったことを更に深く調べるような家庭学習(自主学習課題)が行える可能性がある。

③ パターン③は家庭学習で次の時間の予習をするものです。中学時代に英語の学習で次の時間の単語の意味や文章の概略を調べて、授業を受けた経験がある保護者もいらっしゃるかと思います。まさにその予習を家庭で行うということです。ただし、違う部分もあります。それは、次の時間が通常通り始まるのではなく、家庭で調べてきたことを発表するところから始まるという部分で異なります。授業時間を効率よく深く学習するメリットがあります。これを反転型授業といいます。

④ パターンの④は、授業で学習したことを家でもやってみることが家庭学習(宿題)になっているパターンです。音楽で学んだリコーダーの演奏を家で練習してタブレットカメラで録画して先生に提出することが宿題になります。この家庭学習は、音楽、図工、家庭科などの実技を伴うような教科や家庭での音読の様子を録音録画して提出することも行うことができます。家庭での学習を録音録画する形の宿題のパターンです。

⑤ パターン⑤は、学校で学習したことを更に深く調べたり、興味関心のあることを更に広く学んだりする家庭学習のパターンです。先生から与えられた宿題というよりも子ども自身が学習することを決めて家庭で学ぶやり方です。子どもたちの自主性がよりよく育つと思います。

実はここに挙げた家庭学習の5つのパターンのほかにもあります。

これまで挙げた5つの家庭学習のパターンは、すべて子どもたちが家に帰り、1人で学習するパターンです。いわゆる「個別学習」です。宿題といえば1人で机に向かって集中して行うのが当たり前ですが、個別ではなく友達と一緒に宿題をする、いわゆる「協働学習」という形もあります。

具体的には、学校の授業で友達と一緒に調べていることを家庭に帰ってからチャット等を使って連絡を取り合いながら調べたり、発表するための資料を作ったりすることができます。大人の世界では、こんな形で仕事を進めていらっしゃる方もおられると思います。学校でもこんな形の家庭学習(宿題)も存在しています。全国各地の一部の先進校では、このような家庭学習が実際に行われているのです。

これからの新しい形の家庭学習のパターンを紹介してきましたが、宿題に対する保護者のイメージが変わられたことかと思えます。一人1台のタブレット端末が導入されたことによって授業も補充指導も家庭学習も進化していきます。私たち大人が、これからの家庭学習(宿題)に対するイメージを変えて取り組んでいかなければならない時代がやってきています。